

図書館報

— Seinan Toshokan pou —

2018.
October
No.185



世界の図書館

- 1 当館所蔵「ちりめん本」種々(3)
— ラフカディオ・ハーンの絵本 —
図書館長 古田 雅憲

- 2 研究ノートから
「経済成長と失業」経済学部 国際経済学科 教授 三宅 伸治
ブラウジングルーム
「人生の進路を求める旅」人間科学部 児童教育学科 教授 深谷 潤

- 3-4 世界の図書館
図書情報課 坂本 里栄
ニューオーリンズ公共図書館
ロヨラ大学 ニューオーリンズ校
テュレーン大学
ヒューストン大学クリアレイク校
ライス大学
ヒューストン公共図書館

- 5-6 新図書館施設紹介Ⅲ
プレゼンテーションエリア 図書情報課 小川 ゆさえ
視聴ブース 図書情報課 永津 庸吏
7 蔵書ギャラリー no.25
『甌香譜』
国際文化学部 国際文化学科 教授 松原 知生

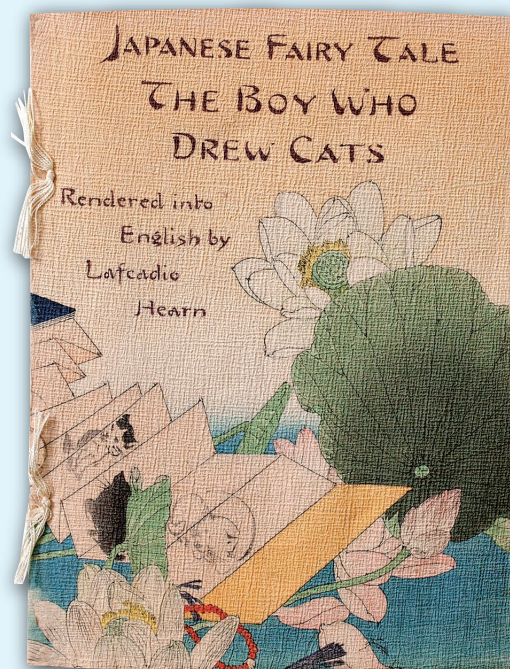
当館所蔵「ちりめん本」種々(3)ーラフカディオ・ハーンの絵本ー

図書館長 古田 雅憲

五冊揃“Japanese Fairy Tales By Hearn”(1922)という英文ちりめん本がある*1。著者はあのラフカディオ・ハーン(Patrick Lafcadio Hearn・1850-1904)、長谷川弘文社の版行である。その一冊“The Boy Who Drew Cats”を紹介しよう。

昔々ある寺に猫を描くのが大好きな小坊主がいた。あろうことか今日は修行中に描いたからとうとう和尚様も怒った。「おまえは僧侶に向かぬ。が“the genius of an artist”を持つらしい。いつか立派な絵描きになりなさい。」破門され困り果てた少年は隣村の大寺を思い出す。訪ねて門を叩いたが誰もいない。実は妖怪が棲みついて訪れる人を喰っていたのだ。そうと知らない少年は勝手に上がりこみ、誰も来ないのを良いことに本堂の襖に猫絵を描き始めた。夢中で描くうち眠くなったが、その時ふと師匠の言葉を思い出した。和尚様は出て行く少年に“*Avoid large places at night;—keep to small!*”とささやいたのだ。そこで少年は狭く小さな戸袋の中に入って眠りこんだ。さて夜中、激しい物音と叫び声で目がさめたが怖くて動けない。やっと静かになった明け方、戸袋からはい出した少年は、牛ほど大きな化け鼠が血の海に沈んでいるのを見た。見回すと襖の猫たちが口もとを真っ赤に血塗らしているではないか。不思議な符合に少年は驚いた—ああ、この猫たちが守ってくれたのだ、和尚様の言葉もまた—。この少年は後に有名な絵描きになったとか。

似た話が岩手県は正法寺という曹洞禅の古刹に伝わっている。「住職の描いた猫が寺に棲みついた化け鼠を退治した」と言うのだ*2。江戸後期以来、東国には猫絵描きを生業とする旅芸人がいたらしい*3から、ハーンはそういう人々が語り伝えた「正法寺口承の類」を再話したのかしれない。



“The Boy Who Drew Cats” (6階R:貴重書庫388/1/22-23)

また往時「鼠除けに猫絵を貼る」ことが市中に広く行われていた—歌川国芳(1798-1861)をはじめとする浮世絵師はもちろん、上州は新田岩松の殿様さえも人々の求めるままに猫絵を描いた*4。言わば空前の猫絵ブーム。ハーンもたくさんの猫絵をきっと見た。そこに「名人の手がけた絵や彫刻が動き出す話」を思い合わせて話を創ったのかとも。

再話であれ創作であれ、急速な欧化の中で見失われていく霊的で幻想的な「日本の面影」を来日した(1890)ハーンは写し留めようとしたのだ。全文中そこだけイタリックで綴られた二つの言葉—“the genius of an artist”と“*Avoid large places at night;—keep to small!*”がそれを示唆する。つまり「少年の内に秘められた天賦の才」と「それを見抜き守った老僧の霊的直観」と、そういう「人智を越えた何者かが差配する不思議」を一話の内に称揚すること、それがハーンの意図だったのだろう。

さて鈴木華邨(1860-1919)の手がけた表紙絵だが、ぼっかりと咲いた蓮の花や青々とした葉を背景に、猫を描き散らした折帖と念珠が描かれている。猫に書き添える花と言えば伝統的な画題では牡丹だった。実は華邨もそれをよく知っている—四頁の挿絵には一心に猫絵を描く小坊主の姿があるが、その傍らに描かれた衝立の襖障子には、それはもう立派な牡丹図が描かれているのだ。(その画中画には華邨の銘まで記されている。)

それと承知で「蓮の花と葉、それに念珠の玉」を描き添えたとなれば、そう、あの和歌だ—蓮葉の濁りに染まぬ心もて何かは露を玉と欺く—この僧正遍昭の「古今集」所収歌が華邨の脳裏にあったに違いない*5。歌の大意は「泥中に生じてなお汚れない蓮の花、純粹無垢のお前がどうして、その葉に宿った露一滴を宝珠かと思誤らせるのだろうか」というもの。仮に「泥中に生じてなお汚れない蓮の花」を「少年の天真爛漫」に、また「露一滴を宝珠かと思誤らせる」を「実物と見誤るほどに猫を活写する画才」に重ね合わせて読み解くならば、なるほどこの表紙絵は、この物語にこそ相応しい一葉だと見えてくるのだった。

参考資料

- (*)1 “Japanese Fairy Tale Series” No.23-25として出版された“The Boy Who Drew Cats”(1898)、“The Goblin Spider”(1899)、“The Old Woman Who Lost Her Dumpling”(1902)の三冊、また“Japanese Fairy Tales Second Series”の一冊として出版された“Chin Chin Kobakama”(1903)。その四冊をハーン没後に“The Fountain of Youth”(1922)と合わせて再編したもの(6階 R:貴重書庫 388/1/22)。
- (*)2 八岩まどか『猫神様の散歩道』青弓社、2005(5階 ブックツリー外回り 387/0/158) 21-22頁
- (*)3 藤原重雄『史料としての猫絵』山川出版社、2014(4階 B:通常書架 210/08/59-79) 23頁
- (*)4 落合延孝『猫絵の殿様 領主のフォークロア』吉川弘文館、1996(4階 B:通常書架 210/5/415)
- (*)5 “Rokkasen”(六歌仙)というちりめん本がある。秋山愛三郎がKelly & Walsh社と組んで発行したものだ(1894)。その一頁に僧正遍昭の歌として「蓮葉の濁りに」を掲げ、「湖一面に咲き誇る蓮の花を舟遊びする貴女が摘みつつ愛でる」図が添えられている(絵師未詳)。確証はないが、華邨がそれを見ている可能性は高い。

経済成長と失業

経済学部 国際経済学科 教授 三宅 伸治

現在私は、高齢化が進む経済において経済成長と失業のあいだにどのような関係があるのか、とりわけ経済成長と若年失業の関係について研究しています。既存研究との関連から研究の背景とともに、この話題について紹介させていただきます。

もともと経済理論では、経済成長と失業は切り離されて考えられており、両者の関係を分析する研究は進んでいませんでした。そのため、失業対策・雇用対策は様々なものが実行されていますが、これらの諸政策が経済成長に与える効果や影響は(少なくとも理論的な観点からは)明確になっているわけではありませんでした。一見好ましい雇用政策も、本当は経済全体には悪影響を与えていることもありえます。ただそうは

いっても、経済成長と失業の関係を説明する理論研究は蓄積されていないのですから、理論的な観点からは判断しようもありませんでした。

この状況を変えたのがサーチ理論で、失業と経済成長の関係の分析にも応用されています。サーチ理論はDiamond教授、Mortensen教授、Pissarides教授らの研究を中心として発展してきました。将来のことがわからないという状況で仕事を探すことを

明示的に分析に取り込んだサーチ理論の考え方は、失業対策・雇用対策の影響や効果の分析の他、様々な経済問題の分析に応用されています。私の研究はこの流れの中に位置しています。経済成長と失業のあいだに成立するメカニズムを見出すことができれば、経済成長を阻害しないようにするためにどのような失業対策・雇用対策をどの程度実施すればよいかといった指標をつくる道が開けるはずです。

また、私は現実の問題を考えるともう少し失業の世代(年代)を特定する必要があるのではないかと考えています。冒頭で「若年失業」と書いたように失業者の世代(年代)を分けているのは、限りある貴重な政府の財源(税金)を失業対策に用いる場合、究極的には、どの世代の雇用に重点を置くべきかを考える必要があると思うからです。サーチモデルは基本的には異なる年代の労働者がいることを考慮に入れないまま分析されています。そこで仕事探しを、1980年代から財政問題や環境問題など幅広く用いられてきた世代重複モデルというより現実に近い人口構造を持った経済モデルに組み込み、経済成長と(若年)失業率の関係を分析したいと思いました。想像以上に計算が複雑でパソコンの力を借りながら試行錯誤が続いています。

私の研究テーマからは少し離れますが、『人手不足なのになぜ賃金が上がらないのか』は大変重要な疑問に対して、20人の専門家の答えをまとめたものです。雇用と賃金について失業、サーチモデル、非正規労働、国際競争、就職氷河期など様々な論点から考察されており、とても勉強になります。

『人手不足なのになぜ賃金が上がらないのか』玄田有史 編著、慶應義塾大学出版会 2017年(5階 B : 通常書架 366/4/62)



ブラウジングルーム

人生の進路を求める旅

人間科学部 児童教育学科 教授 深谷 潤

ずいぶん昔の話になるが、私が高校3年生の時、ご多分に漏れず進学先の選択に随分迷った。将来自分は何になりたいのか、自分の適性や特技も分からず、途方にふてくされていた。同級生の多くは、希望する大学名を先に選び、自分の偏差値と見比べながら、受かりそうなところを受験雑誌の情報を頼りに決定していた。他方、私は、大学で何をしたいのかを決める方が重要だと思い、街の大きな図書館に行き、書架を端から端までくまなく眺め、興味のある本の背表紙をひたすら探しまくった。ふと、ある黄緑色のソフトカバーの本が目にとまり、『だれが子どもを落ちこぼれさせるのか』というタイトルに思わず惹きつけられた。残念ながら著者や出版社等を控えておらず、手元にない。ただ、当時の私にとって、人生の進路に対し図書館の中に答えを見つけたような気がした。これが私の教育学を選ぶきっかけであった。

当時、夏期の一度だけ、ある予備校の対策講座に参加した。そこで、講師が、(今考えるととてもないことだが)「岩波新書を全部読みなさい」という指導をした。私が受験した大学は、通常の受験対策をするだけでは合格できず、雑学も含めた一般教養が求められていた。岩波新書はカバーが地味なので、私は講談社現代新書を好んで読んだ。「全部読む」ことはもちろんできなかったが、自宅の書棚に小さなイラスト入りの新書が並ぶ光景に充実感を覚えたものである。(現在、背表紙にイラストはなくなった。)

近年、私のゼミ生には、新書を多く読ませるようにしている。学術的な内容を一般向けに分量的にも読みやすくまとめられているからである。教育学に限らず、様々なジャンルに「広く浅く」目を通すには、新書は最適である。本の背表紙をずらっと眺め、その中で気に入ったものを手に取り、今の自分に読む価値があるかどうかを判別する。このような技法をゼミでは磨いている。新書は、さほど分厚くなく、比較的早いペースで読み進めることもできる。幸いどの図書館にも多くの新書が配架されており、本学の図書館も充実している。

昔から人生に悩む若者は、旅に出た。旅は教養を高める訓練の一つだった。お金がなくともできる旅、それは図書館で本を借り、書物の中で様々な知識に触れる経験である。時代や文化の違いを超えた他者、偉人、そしてあこがれの有名人と出会う旅は、書物を通して何度でも経験できる。学生諸君には、とりあえず、新書から始めることをお勧めしたい。



世界の図書館

特別編

〔図書館員 南部アメリカに行く〕

図書情報課

坂本 里栄

ALA(American Library Association, アメリカ図書館協会)の年次大会への参加と近隣の図書館の訪問で、6月23日から30日まで、アメリカ南部の都市、ニューオーリンズとヒューストンに行ってきた。今回の渡米は、公務ではなく、休暇をいただき、私立大学図書館協会からの助成^{*1}を受けて、「ALA・米国図書館研修」^{*2}という研修に参加してのものである。参加した動機はALAの年次大会への参加や、アメリカ南部ってどんなところだろうという単純な興味に動かされてであったが、普段味わうことの出来ない南部アメリカを満喫し、多くの図書館を見学することが出来た。

ニューオーリンズ

(ニューオーリンズ公共図書館) (ロヨラ大学 ニューオーリンズ校) (テュレーン大学)

アメリカ

ニューオーリンズは、メキシコ湾に面するルイジアナ州最大の都市である。かつては、フランス領ルイジアナの首府であったことでも知られている。訪問の拠点としたフレンチクォーターは、フランス植民地時代の建築様式を多く残している美しい町並みや、ジャズ発祥の地としても知られている。映画から飛び出したような、私たちがイメージするアメリカ、そのままの印象だった。実際、「ベンジャミン・パトン 数奇な人生」などの、多くの映画のロケ地ともなっているという。「インタビュー・ウィズ・ヴァンパイア」の舞台という年齢がばれるかもしれないが、作者のアン・ライスもまたこの地に住んでいたそう。

また、2005年に発生したハリケーンカトリナによる被害は、日本でも大きく報道されたため、多くの犠牲が出たことを覚えている方も多いのではないだろうか。ニューオーリンズ公共図書館では、ハリケーンからの復興に関する興味深い話も多く聞くことが出来た。昨年の九州北部豪雨、今年の西日本豪雨、雨による災害を身近に感じているため、復興へのアクションプランは大変興味深い内容だった。

ニューオーリンズ公共図書館 (New Orleans Public Library)

ニューオーリンズ公共図書館では、ハリケーンカトリナの被害と、復興についてお話を聞いた。中央館以外に、分館のRosa F Keller, Best Buy Teen Tech Centerにも訪問し、カトリナの被害と、近年の取り組みについてのお話を伺った。特に復興については、資金面の考え方の日米の差異について、強く考えさせられた。アメリカでは、資金や予算が無いと、職員を解雇したり、業務を停止させたりするという局面を見ることがある。カトリナの災害により、ニューオーリンズ公共図書館は、14分館220名だった体制を、

3分館20名まで縮小している。一方、Rosa F Keller分館は、カトリナで3.5m冠水し、約12,000冊の資料が廃棄となったため、当初、市は跡地を公園にする計画だったが、市民運動とファンディングでの資金集めによって、最初に復興した施設の一つとなったという。これは、日本人の私の感覚からすると、大きな違和感を抱く場面で、災害復興時の非常時における考え方の違いは顕著で、お金に絡む話と現実とのバランスのとり方は、日本と米国とで大きく相違することを実感した。図書館復興計画のMASTER PLAN^{*3}はwebにも公開されているので、ご興味のある方はこちらの資料もどうぞ。

ロヨラ大学 ニューオーリンズ校

(Loyola Univ. New Orleans,
J.Edgar & Louise S. Monroe Library)

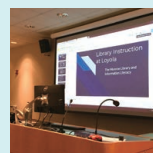
ロヨラ大学では、初年次教育を、本学と同じように、図書館員が行うこともあるようだ。先方のライブラリアンとのミーティングでは、日本の初年次教育制度に興味を持っており、今後の情報交換は有益ではないかと感じている。

本学と同様に、様々な機器を貸し出している。貸し出している機器の種類は多く、よく

使われている機器を訪ねると、関数計算機が人気だそう。図書館がラーニングコモンズとしての機能を持ち続けることは、今後とも必要であり、備品類も含めた需要調査を継続して行っていく必要があるようだ。



貸出機器



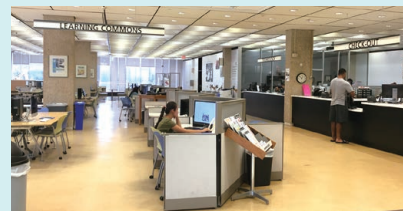
ミーティング風景

テュレーン大学

(Tulane University,
Howard-Tilton Memorial Library)

テュレーン大学の図書館は、館内のデザインや色調が統一的でスタイリッシュにまとめられていた。派手さはないが、質実剛健な運営が垣間見える、良い図書館だと感じた。

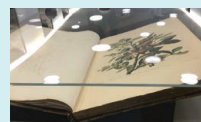
訪問時、オーデュボンのBirds of America (本物)が展示されていた。この本は、イラスト版原寸大の鳥類図鑑で、世界で最も高価な本の一つとも言われている。個人蔵の現存数は、確認されているだけでも、十数冊程度で、オークションに出品されれば、億に近い価格がつくこともある貴重な本だ。



ラーニングコモンズ



館内PC



Birds of America



モンローライブラリー



- ※1 私立大学図書館協会海外認定研修(B)
- ※2 図書館総合展運営委員会・丸善雄松堂株式会社, "ALA・米国図書館研修2018", 丸善雄松堂株式会社サービス事業部, http://library.maruzen.co.jp/?post_type=ala&p=306 (accessed 2018-09-26)
- ※3 NEW ORLEANS PUBLIC LIBRARY, "NEW ORLEANS PUBLIC LIBRARY MASTER PLAN", <https://thelensnola.org/wp-content/uploads/2011/11/library-masterplan.pdf> (accessed 2018-09-26)
- ※4 Edited by Eric M. Jones and Ken Glover, "The First Lunar Landing", <https://www.hq.nasa.gov/alsj/a11/a11.landing.html>. Apollo Lunar Surface Journal. NASA. (accessed 2018-09-27)
- ※5 Rice Univ. Fondren Library, "Library Service Center (LSC)", <https://library.rice.edu/lsc> (accessed 2018-09-26)
- ※6 Rice Univ. Fondren Library, "Selection Guidelines for Off-site Shelving", <https://library.rice.edu/guides/selection-guidelines-site-shelving> (accessed 2018-9-27)
- ※7 Charles Forrest, "Off-site Library Storage Solutions", IFLA Library Buildings & Equipment section Blog, <https://iflalbes.wordpress.com/2016/12/15/off-site-library-storage-solutions/> (accessed 2018-09-26)

ヒューストン (ヒューストン大学クリアレイク校) (ライス大学) (ヒューストン公共図書館)

アメリカ

ヒューストンは、テキサス州の最大の都市で、歴史的にはスペイン領、メキシコ領を経て、テキサス共和国として独立、その後、1845年にアメリカ合衆国に併合されるまで、独立国だった地域にある。ヒューストンの名称は、テキサスがメキシコとの独立戦争を戦った際のテキサス側の将軍の名前に由来するという。郊外には、「こちらヒューストン」で日本でも馴染み深い、アメリカ航空宇宙局 (NASA) ジョンソン宇宙センターが設置され、周辺地域では、電子工学をはじめとした宇宙産業が発達している。サンベルトの中心都市の一つとして、ビジネスが発展する反面で、美術館、博物館も充実しており、文化都市としての側面も持つ。

ヒューストン大学 クリアレイク校

(Houston Univ. Clear Lake,
Alfred R. Neumann Library)

ヒューストン大学は1927年に設立された州立大学である。45,000人の学生と、2,600人の教員が所属している。大学機能としては、ヒューストン大学本校のほか、クリアレイク校、ダウタウン校、ヴィクトリア校があり、それぞれ独立して図書館が設置されている。このうち、訪問したのは、クリアレイク校で、NASAとの連携がある図書館ということで訪問した。1989年にヒューストン・クリアレイク・アーカイブズが設置され、コレクションの保存・研究を行なっている。大学内のリポジトリとしてだけでなく、ジョンソン宇宙センター (JSC) の歴史資料のアーカイブズとしても機能しているという。訪問時のミーティングでは、ジョンソン宇宙センターのアーキビストと、ヒューストン大学のライブラリアンと両方の職員が参加して図書館とアーカイブズを紹介していただいた。アーカイブズの活用事例としては映画「ドリーム (原題: Hidden Figures)」や「First Man (日本未公開)」などで考証資料の提供や、役作りとしての出演者からの問合せで当時の心理テスト内容を提供

するなどの事例があると言う。大変興味深いお話を伺った。

NASAのOfficial Documentは、一般市民向けにはNTRS (NASA Technical Reports Server) で公開されている。ほかにも、Apollo 11計画の際のJSCとApolloとの通信スクリプトなどは次のURL※4からご覧いただける。これも今回の訪問で興味をもって調べてみなければ、知らなかったことだ。

ライス大学

(Rice University, Fondren Library)

ライス大学は、1891年に設立された私立大学である。図書館の取り組みとしては、シェアードプリントWEST (米国北西部を中心とした研究図書館が参加する紙媒体の雑誌の共同保存の取り組み) に参加したり、Digital scholarship (デジタルを使った研究方法) の支援に取り組んだりしている。なかでも目を見張ったのは、2004年オープンオフサイトの書庫※5※6である。重複本、利用頻度が低い資料、貴重書を収めており、その数は100万点以上になる。環境管理は、華氏55度 (摂氏約13度)、湿度30パーセントの紙ベースの資料に最適化されているため、貴重書もオフサイトの書庫に収めて

いるとのことだった。また、書庫内は、請求記号ではなく、資料の大きさで整理され、その管理は物流の専門家が行っている。図書館とオフサイトの書庫との資料の運搬は、1日2回行われ、14:00までの出庫請求であれば、当日のうちに利用者が利用できる仕組みとなっているとのことだった。

オフサイトの書庫は、自動書庫の自動部分を人力に代えた方式となっている。この方式は、ハーバードモデル※7というらしい。狭隘化解消は、工夫次第。

ヒューストン公共図書館

(Houston Public Library,
Scenic Woods Regional Library)

ヒューストン公共図書館の分館のひとつ、TechLINKでは、SF映画のような入り口があり、その先には、様々なテクノロジーが提供されていた。2018年5月19日にオープンしたばかりとのことで最新施設が整備されているが、IT機器が多く、機器の更新周期は長くとも5年周期でやってくる。ここでも、sustainable (持続可能な) という言葉をキーワードとして聞いたが、3年後、5年後はどのようになっているかの実際を、経年で状況を知りたくなる施設だった。



オフサイト書庫



TechLink入口

動作中の3Dプリンタ

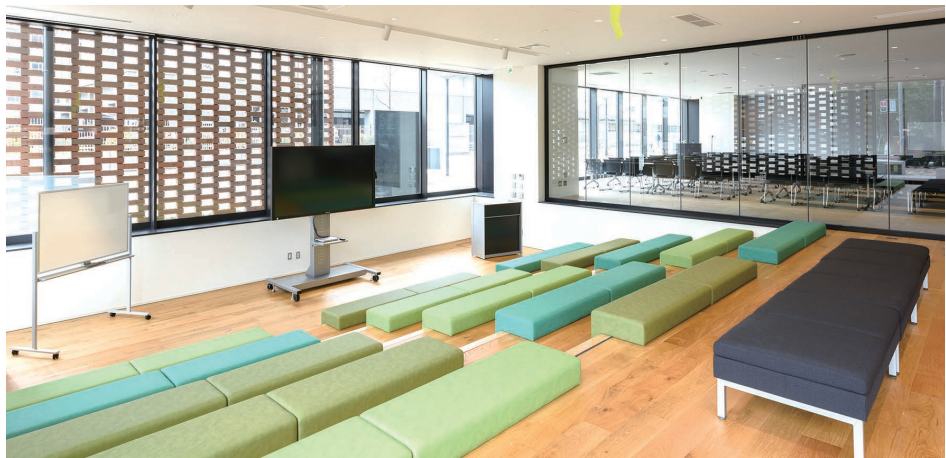
3Dプリンタで作られた作品

3Dプリンタが公共図書館で提供されていることに驚いた。スキャナや3Dプリンタは、教育へ新しい変革をもたらす可能性がある。データベースの充実がある一定の分野の研究を終了させ、新たな次元の研究が開始されたように…。

プレゼンテーションエリア

図書情報課 小川 ゆきえ

図書館の外にサザエさんの像がありますが、この付近から図書館の中を覗くと、階段状に座席が並んだエリアが見えます。時折イベントなどを開催しているこの空間、「プレゼンテーションエリア」についてご紹介します。



出入り自由な会場

プレゼンテーションエリアは、文字通りプレゼン等の発表をする場として、学生の皆さんに使っていただけるように設置したエリアです。40～50名は座ることができるこのエリアには仕切りの壁がありません。これは、興味を持った人が誰でも自由に出入りできるようにしているためです。多くの学生に気軽に参加してほしいイベントや、人前での発表やその練習等をしたい時は、自由にお使いください。

予約もできます

このエリアは、空いている時は自由にお使いいただいて構いませんが、予約している方を優先します。予約は図書館のWebサイトから受付けています。前号(図書館報No.184)でご紹介したグループ学習室を予約する画面からアクセスしてください。

こんなことしました！

これまでにこのエリアが使われた事例をご紹介します。

図書館のサポートスタッフによる「レポートの書き方セミナー」/同じくサポートスタッフによるイベント/データベース講習会/留学体験者の発表会/法学部Vis Moot(国際模擬商事仲裁大会)チームの公開練習/留学生の発表会/公開授業/オープンキャンパスでのイベント/などなど。出入り自由な空間の特徴を活かし、様々な場面で使われています。



図書館の外へもアピール?!

以前、このエリアでデータベースの講習会をしていた時のこと、たまたま通りがかったのであろう学外の方が2名、しばらくの間ガラス越しに外から覗いておられました。「西南の学生、何やら頑張ってるな。」「楽しそうだな。」「という印象を持てただけなのでは?と、個人的に思っています。留学体験の発表会をしていた時は、外を通りがかった本学の学生が、同じようにガラス越しにこのエリアを覗いた後、図書館に入館し、席に座って途中から参加してくださいました。図書館の中にいる人も、そして外を通りがかった人にとっても気になる空間、プレゼンテーションエリア。今後も多くのシーンで活用してください。





視聴ブース

図書情報課 永津 庸吏

図書館は本や雑誌だけではなく、Blu-rayやDVD、VHSやCDといった様々な視聴覚資料も所蔵していることをご存知でしょうか。レコードやレーザーディスク（学生の皆さんはレーザーディスクという媒体を知らない方が多いかもしれません）といった古い資料ももちろん所蔵しています。

視聴覚資料は基本的に「禁帯出」（貸出ができない）としています。そのため、図書館にある視聴覚資料は図書館内で利用しなければなりません。そういった視聴覚資料を利用するための専用スペースとして、図書館では「視聴ブース」を設けています。

視聴ブースは3階の情報検索室（小さい方のPCルーム）横にあります。部屋に入ると低い壁で仕切られた個室タイプのブースが16あり、空いていればどのブースを利用しても構いません。どのブースも2名まではゆったり座れる程度の広さで、テレビとBlu-ray・DVDプレーヤー、ヘッドフォン2つを備え付けています。ご自身のイヤフォンやヘッドフォンを繋いで利用することもできます。

もっと多人数で
視聴したい
ときは…



3人以上、あるいはゼミ単位などもっと大人数のグループでDVDを視聴する必要がある、といった場合は、視聴ブースではなくグループ学習室が利用できます。電子黒板に備え付けのノートPCでDVDが再生できるほか、2階のラーニングサポートデスクでポータブルBlu-rayプレーヤーを貸出しています。電子黒板に接続すれば、大きな画面で視聴することができますので、ぜひお試しください。



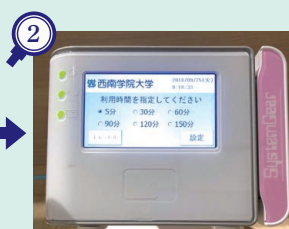
視聴ブースを利用するには？

使い方は下図を参照ください。テレビの横にある機械に学生証をかざすと利用時間を選択する画面が表示されます。おおよその利用時間を選択すると、しばらくして自動でテレビとプレーヤーの電源が入りますので、付属のリモコンで操作してください。

視聴覚資料はブース横の棚に、タイトルのアルファベット順（「あ」から始まるのであればA、「い」から始まるのであればI）で並んでいます。Blu-ray、DVD等のメディア毎、また国内版と海外版でも棚が分かれていますので、注意してください。）



学生証をかざす



利用時間を選択



自動的にテレビとプレーヤーの電源が入る

【利用が終わったら】

資料の利用が終わった後は、再びテレビの横にある機械に学生証をかざしてください。利用時間中であっても途中で終了させることができます。また、利用した資料を棚に戻す必要はありません。視聴ブース入り口横に置いてある返却用トラックに資料を返却してください。

返却用トラック▶



おう こう ふ
『甌香譜』

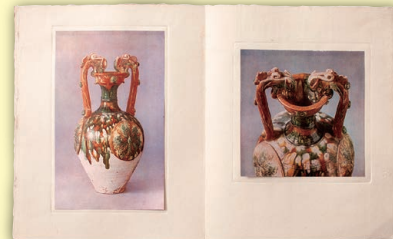
[6階 R:貴重書庫 751/2/4]



【図1】
古美術商でやきものを眺める青山二郎(右)と小林秀雄



【図2】
中原中也『在りし日の歌』創元社、昭和13年(青山二郎装幀)



【図3】
『甌香譜』より「唐三彩龍頭壺」(重要文化財)

『甌香譜』は、名高いやきもの蒐集家である横河民輔が昭和6年に自費出版した、自分の所蔵する漢から清までの中国陶磁器60点を掲載した図録である。限定200部(当館所蔵版はそのうちの122番)で定価50円という、当時としては破格の高級美術書であった。

建築家・実業家の横河は、大正初年に中国陶磁の蒐集を始めると、その財力と学究肌を活かし、世界最大級の体系的コレクションを築き上げるに至った。約1,100点の蔵品は東京国立博物館に寄贈され、現在も同館の中国陶磁コレクションの中核をなしている。その超豪華図録の編集者として抜擢されたのが、当時弱冠27歳の青山二郎である(図1)。

青山二郎とは何者か、一言で説明するのは難しい。若い頃は柳宗悦の民藝運動に共鳴し、本書の出版と同じ昭和6年に創刊された運動の機関誌『工藝』(当館にもDVDによる複製版が所蔵されている)に、命名者および編集者として深く関わった。多くの文士と交友し、小林秀雄や白洲正子ら名だたる文筆家たちに骨董愛好を指南した。さらに装幀家としても知られ、早逝した友人・中原中也のために手がけた『在りし日の歌』(図2)の大胆なデザインは有名である。談論風発の気風と個性的な人柄は、多くの人々を惹きつけ魅了した。目立った業績を形として残さなかったものの、近代日本におけるやきもの愛好の新しい潮流の常にある中心にあつて、独自の見方を体現し続けた、いわば「颱風の眼」のような存在である。

稀代の目利きにして生来の凝り性であった青山のこだわりは、『甌香譜』の制作にも遺憾なく発揮されている。まず数千点の蔵品の中から数百点を選んで撮影し、さらに厳選して60点に絞った上で、1点ごとに数枚から十数枚の写真を

撮らせた。撮影にあたっては、作品の特徴が最もよく現れるアングルを探究し、照明から天地左右の空に至るまで、細やかな神経を注いだ。色校も幾度となく繰り返され、3色刷りで十分に色が再現できないと判断したものは、4色ないしは5色版とした。原色版を担当した田中松太郎は、日本に3色版カラー印刷を最初に導入した技術者で、本邦における美術印刷の草分け的存在であるが、その彼をも泣かせたほどの念の入れようである。

図版は作品ごとに上質紙の台紙に貼られ、一点一点鑑賞できるようになっており(図3)、今日のわれわれが親しんでいる画集や図録とはかなり趣が異なる。発行者の倉橋藤治郎が述べるように、本書はまさしくそれ自体「独立して立派な工芸作品」なのである。ここで青山は、図録あるいは美術写真という新しいメディアと伝統的な古陶磁のメディウムを競合させようと目論んでいるかに見える。青山がやはり昭和6年に刊行した和綴じの奇書『陶経』にも、同様のことが言えよう。その凝りに凝った晦渋な擬古文は、一見しただけでは汲み尽くすことのできない日本のやきものの豊かなマチエールを想起させる。あたかも青山は、言葉では表現できないやきものの美や質感を、書物のメディアや文体の特性を通じて模倣しようとしているかのようだ。

のちに青山は、『甌香譜』編集の依頼を「鑑賞家の度胸だけで引受た」と回想している。足掛け5年に及ぶ作業の報酬として得た1,000円は、友人と吞んで1週間で使い果たしたという。青山に対する関心の高まりを反映してか、現在の古書市場では、当館が10年ほど前に購入した時の倍近い価格で取引されている。

編集後記

読書の秋です。虫の声を聞きながら太古の地球に思いを馳せる、科学系の本はいかがでしょう。「恐竜は鳥に進化した。」という説を聞いたことがある方もいるでしょう。羽毛が生えていた恐竜もいるとか。巨大で怖いイメージの恐竜も、羽毛でモフモフな姿を想像すると、なんだか可愛らしく思えてくるかもしれません。西南学院大学図書館のOPACで検索すると「恐竜」で76件ヒットします。ぜひ図書館で、あなたの好奇心をくすぐる1冊を見つけてください。

(Y.O)

西南学院大学図書館報 No.185

2018(平成30)年10月31日発行

編集 図書館報編集委員会

発行 西南学院大学図書館

〒814-8511 福岡市早良区西新6丁目2番92号

TEL (092) 823-3426

<https://opac.seinan-gu.ac.jp/library/>

図書館報バックナンバーも上記サイトに掲載しています。